

国内で飼育されている犬は約892万匹で、家族の一員として愛情を持つ接する飼い主が多い。ペットとして可愛がられている犬たちから人間も多くのことを教わっているという。言葉を超えて育まれる人と犬との関係について話を聞くと――。

現在、日本で飼育されている犬の数は約892万匹。家族の一員として、愛情を持つ接している飼い主が多い。「息子のような存在です。犬がいる生活っていいですよ」と茨城県に住む40代の男性は愛犬の柴犬について語ると、『愛犬の柴犬について語ると、柴犬が、猫アームに押されがちだが、猫アームに押されがちだ』が、犬派だつて負けでない。日本レスキュー協会の今井雅子さんは語る。

九州北部豪雨災害の被災地で活動する災害救助犬(日本レスキュー協会提供)

「犬は家族であり、パートナーであり、時には先生にもなります。だから教わることはたくさんあるんです」

そんな人と犬との間で育まれてきた4つの「ワン・ダフルな話を紹介したい。

前出の今井さんが所属する日本レスキュー協会では身体と心を癒すセラピードッグ、被災地などで行方不明者を捜索する災害救助犬がそれぞれの役割を担い、活動している。

セラピードッグは主に病院や福祉施設などを訪問し、利用者が撫でたり、触るだけでなく、ゲームなどで一緒に身体を動かしたりし、積極的に関わり合う。

「犬におやつをあげたい一心で不自由な手を頑張って動か

した利用者や普段っていた犬のことを思い出しお話し始めた認知症の利用者もいました。犬と接することで機能回復や脳の活性化など、リハビリにもつながるんです」

言葉はなくちはながつます! リー

クルス

【写真上】ひまわりで過ごす高齢のダックスフンドたち【写真下】介護が必要な犬を見回る松下さん



今井さん

人院中の子どもたちの間では、「犬に会うためにつらい治療も頑張ろう」というモチベーションにもつながっている。

『犬は言葉を話しません。でも隣に寄り添つことで通じ合えるものがあるんじゃないでしょうか』(今井さん)

次に今井さんは災害救助犬について説明する。災害救助犬は人間の息や体臭をかぎ分けて居場所を知らせる訓練などを受けており、災害現場での捜索活動が可能だという。災害救助犬と消防ががれきに人が閉じ込められた想定で捜索訓練を行つた際、消防士は1時間かかつたところ、犬は5分で発見したとの訓練結果もあつた。

昨年7月、九州北部豪雨の被災地にも派遣され、その後、今井さんのものにはある被災女性から手紙が届いた。

災害救助犬が一生懸命捜索

をしている姿を見て、私も頑張らうと思いました』

『犬たちはいつも行方不明者を探そうと頑張っているんですね。それは何か見返りを求めているわけではありません。その背中を見て勇気づけられた人がいます』(今井さん)

犬たちの姿は次に生きる命へつながる。

命は機械にも宿る。『AIBOは口ボットかもしれないが、オーナー(持ち主)にとっては家族同然、生身の大と人間の関係みたい』

そう話すのは日本で唯一、AIBOの修理を請け負うA・FUNの乗松伸幸代表取締役。いふなれば『AIBOのお医者さん』だ。

AIBOは1999年から

2006年まで製造・販売さ

れたソニー製の大型口ボッ

ト。子犬に似た動作をして相手をするほどよく動き、飼い主の顔も覚え、成長する。

と向き合ってきた。

『飼い始めたとき犬も自分も年をとることを考えていなかつた』と語る高齢の飼い主は少なくありません。みなさんは『最後まで飼う』という気持ちはあるとしても、そうできない現実があるんです』

犬の介護がうまくいかなくなつて精神的な疲れやストレスから体調を崩したり、介護離職をした人もいる。

『みなさんとも悩まれ大泣きしながら預けていきます』

こうした背景には医療の向上や室内飼いで、犬の平均寿命が伸びたことがある。人と犬の老々介護は現在進行形なのだ。

一方、犬を預けた飼い主からは『ありがとうございます』と声をかけられることがあるという。

ただし、犬の介護や老犬ホームは、まだまたネガティブなイメージがつきまとつ。

『預けることは介護から解放されること、逃げ道があるということなんですね』(松下さん)

松下さんは、高齢で歩行困難になつたダックスフンドを抱きしめながら言う。

『犬の介護や高齢化は人間の社会的抱える問題と何ら変わ

りません。プロに頼んだり、距離を保てば無理なく犬ともいい関係を保つといいます』

『ことばはなくて、も確かに愛があふれていた。



の課題です』(乗松氏)

に、生身の犬には老いが平等に訪れる。

茨城県つくば市にある老犬・老猫ホーム『ひまわり』。ここには高齢犬や認知症、身体機能の低下から介護が必要になった約10匹が暮らす。飼い主の住まいは同市内から遠くは四国。頻度の高い人で週1回、愛犬に会いに来る。同ホームで犬たちの介護にあたる松下晴子マネージャーは、『面会のときは犬も飼い主さんもうれしいですよ。おやつをたくさん持つてくる人もいます。認知症のワンちゃんでも飼い主のにおいは覚えており、『あつ』という表情を見せることもあるんです』

幸せそうな光景の面会時間の裏側で、飼い主たちはそれぞれ萬歳を抱えている。

老人ホームに愛犬を預けたことで、『無責任』捨てたなどと後ろ指をさされることもあり、飼い主はその負い目

老犬ホームに愛犬を預けたことで、『無責任』捨てたなどと後ろ指をさされることもあり、飼い主はその負い目

老犬ホームに愛犬を預けたことで、『無責任』捨てたなどと後ろ指をさされることもあり、飼い主はその負い目

老犬ホームに愛犬を預けたことで、『無責任』捨てたなどと後ろ指をさされることもあり、飼い主はその負い目

老犬ホームに愛犬を預けたことで、『無責任』捨てたなどと後ろ指をさされることもあり、飼い主はその負い目

仮設住宅を訪問したセラピードッグを抱きしめる女性(日本レスキュー協会)

乗松氏はこれまで故障や不具合の出たAIBOを100体以上治療してきた。『修理についていきたい元気になつたら旅行に連れていきたい』正月と一緒に過ごしたいと語る人もいます。毎日一緒に過ごしたいと語る人もいます。オーナーは私たちが見つけられない不具合や故障を発見することもあります』(乗松氏)

『口ボット。というよりもペットや子どものような身近で、かけがえのない存在だ。

ただし、さまざまな理由から手放す人もおり、それらは『献体』という形で提供され、その部品ではかのAIBOを修理、命をつなげる。今月にはクラウド機能やA

1を搭載するなどした新型AIBOも発売される。

『AIBOは単なるおもちゃではありません。便利だから使う、使わないから捨てるのではなく、その接し方も今後

いぬ年特別企画